

深志卓球部だより

2009, 6, 9

県高校総体を終えて

学校対抗 ベスト4

(新人戦に引き続き、連続2期団体県入賞)

学校対抗1回戦(対篠ノ井)		
深 志	3 - 0	篠ノ井
白 鳥	9 - 1 1	南
	1 1 - 5	
	1 4 - 1 2	
	1 1 - 7	
田 原	1 1 - 7	川 島
	1 1 - 3	
	5 - 1 1	
	1 1 - 7	
白 鳥 竹 内	1 1 - 2	川 島 林
	1 1 - 7	
	1 1 - 8	

学校対抗2回戦(対岩村田)		
深 志	3 - 1	岩村田
竹 内	1 1 - 8	佐 藤
	1 2 - 3	
	1 1 - 8	
松 島	1 6 - 1 4	佐 原
	1 1 - 5	
	9 - 1 1	
	1 0 - 1 2	
松 島 田 原	1 1 - 3	中 山
	7 - 1 1	
	1 1 - 1 3	
松 島	1 3 - 1 5	中 山
	1 1 - 9	
	1 1 - 9	
	1 1 - 1 3	
	1 1 - 7	

学校対抗3回戦(対長野日大)		
深 志	3 - 2	長野日大
松 島	1 1 - 7	西 尾
	1 1 - 9	
	1 1 - 8	
竹 内	7 - 1 1	山 崎
	8 - 1 1	
	9 - 1 1	
田 原 松 島	8 - 1 1	中 島 山 崎
	9 - 1 1	
	1 0 - 1 2	
白 鳥	1 1 - 7	岡 部
	1 1 - 9	
	7 - 1 1	
	1 1 - 8	
田 原	1 1 - 8	中 島
	1 1 - 7	
	8 - 1 1	
	1 2 - 1 0	

今回の県大会の組み合わせは、勝ち上がるのに最も恵まれたブロックといわれ、シードを破ることで、前回のベスト4入りまではおおむね順調に勝ち上がる予想ができた。

今回の一番の目標は、北信越総体団体戦出場であり、そのためには決勝リーグで1勝がどうしても必要である。前回のベスト4との試合も当然想定しながら今大会の臨んだが、冬場の練習困難な状況から今大会までの道のりは決して平坦なものではなかった。

学校対抗決勝リーグ(対松商学園)		
深 志	0 - 3	松 商
松 島	1 1 - 7	大 西
	7 - 1 1	
	6 - 1 1	
	5 - 1 1	
白 鳥	7 - 1 1	沖 村
	6 - 1 1	
	8 - 1 1	
松 島 田 原	6 - 1 1	沖 村 百 瀬
	6 - 1 1	
	4 - 1 1	

学校対抗決勝リーグ(対小諸商業)		
深 志	0 - 3	小諸商
竹 内	5 - 1 1	美斉津
	6 - 1 1	
	3 - 1 1	
松 島	1 1 - 9	上 原
	6 - 1 1	
	1 0 - 1 2	
	6 - 1 1	
竹 内 白 鳥	8 - 1 1	美斉津 中 澤
	7 - 1 1	
	7 - 1 1	

学校対抗決勝リーグ(対長野商業)		
深 志	0 - 3	長野商
田 原	7 - 1 1	猪 瀬
	1 - 1 1	
	5 - 1 1	
竹 内	4 - 1 1	義 家
	1 0 - 1 2	
	1 1 - 9	
	9 - 1 1	
竹 内 白 鳥	4 - 1 1	猪 瀬 西 澤
	7 - 1 1	
	3 - 1 1	

いつも第一試合の立ち上がりに難があるが、今回はほぼ順調な滑り出しをみせ、初戦の篠ノ井線をものにする、

続く第2試合は東信3位の岩村田であり、もつれる要素も覚悟して臨む。シングルスについては全てものにしたが、ダブルスを落としたのが唯一の失点で、ダブルスの出来はその後の展開にも大きく響くことになった。

第3試合はシードの飯田風越を破った長野日大との対戦になる。長野日大とはGWの長野選抜研修会で対戦しており、そのとき2-3で星を落としている侮れない相手である。今回はその雪辱を果たすべく、試合が始まる。

勝てばベスト4入りだけに、シードを破っての勢いは予断を許さない。1番をものにして少し楽になるも2番とダブルスを連続して落とし、後がなくなる。相手のエースは5番に控えており、4番をものにしても安心はできない。4番を返してタイとなり、5番ももつれるも接戦に強い田原が勝ちを決め、前回の順位を守ることができた。

続いて行われた決勝リーグの相手は、松商学園・長野商業・小諸商業の3校である。松商戦は1セット取るのが精一杯であり、タイムアウトを取ってもまだその後に大きく時間が空く結果となる。続く長野商業戦は、新人大会では5番までもつれ、好勝負を演じたが、今回は一方的な展開になすすべなく、インターハイ出場をめざすチームとの差を味わう結果となる。最後の試合ー北信越出場をかけた大一番が始まる。前回にも対戦しており、その時はこちらが接戦をものにしたが、その後相手方が力を蓄えてきており、前回のような展開にならない。1・2番を連続して落とし、いよいよ後がなくなる。ダブルは最も苦しい相手で、どうしても及ばない。結局後一步のところで大魚を逃し、団体戦は県大会を最後に終える形となった。